

日本チェコ友好協会からのお知らせ

2020年1月29日

日本チェコ友好協会の2020年は恒例となったホルプ先生の講演会で幕を開けました。これまで最高の50名ほどの方が参加され、その後の懇親会でも活発な質疑が続きました。講演の概要を掲載していますのでご覧ください。なお、ホルプ先生は今年8月下旬にメヘニツエ市の市長、市民の皆さん16名とともに来日の予定です。2005年以來の交流が続いています。夏のビールを飲む会はメヘニツエの皆さんと一緒に、会員の皆さんとのイベントも企画してまいります。

本年はチェコ共和国と日本の外交樹立100周年となります。協会では日本とチェコの交流に一層資して参ります。会員の皆様とともに実りある節目の年にいたしましょう。よろしくお願いいたします。

「PIANO TRIO CONCERT」ピアノ、ヴァイオリンとチェロのコンサート

チェコを代表する世界的ピアニストのボリス・クライニー氏(写真)、ソリストとして日本の音楽大学の指導者として在日50年になるヴァーツラフ・アダミーラ氏と、ピルゼン交響楽団でコンサートマスターを務めた山崎千晶氏の3名によるコンサートです。100周年にふさわしいスケールです。

詳細は同封のチラシをご覧ください。

日時:2020年2月29日(土)15:00開演(14:30会場)

場所:芸術家の家スタジオ

会費:大人 4000円 中学校以下 2000円

プログラム:スメタナ:コンサート用練習曲「海辺にて」ピアノソロ

スメタナ:「我が故郷より」ヴァイオリン&ピアノ

ヤナーチェク:「おとぎ話」チェロ&ピアノ

スメタナ:ピアノ三重奏 作品15



日本チェコ交流100周年記念講演会

「カレル・チャペック『ロボット』の過去と現在」

チェコを中心とする中欧文化研究の第一人者、東京大学の阿部賢一先生に「カレル・チャペック『ロボット』の過去と現在」をテーマにお話をさせていただきます。

日時:2020年3月19日(木)19:00より

場所:芸術家の家スタジオ

会費:会員 1,000円 非会員 2,000円

【概要】 ちょうど百年前の1920年、カレル・チャペックの戯曲『R. U. R.』(邦題『ロボット』)が発表されました。「ロボット」という言葉が初めて使われたこの作品は大きな反響を呼び、世界各地で翻訳、上演されました。この作品は、ロシア革命や労働運動との関連で解釈されることもあれば、あるいは近未来、SF小説としても読まれてきました。本講演では、過去から現在に至まで、この作品がどのようにして読まれてきたか振り返りつつ、AIの技術の進展が目覚ましい現代において、同書の意義はどのようなものなのか、考えていきたいと思ひます。

【講師略歴】 阿部賢一(あべ・けんいち)

1972 年生まれ、東京外国語大学・カレル大学・パリ第四大学で学ぶ。現在、東京大学准教授。専門は中東欧文学、比較文学。著書に『イジー・コラーシュの詩学』(成文社)、『複数形のプラハ』(人文書院)、『バツカナリア 酒と文学の饗宴』(共編著・成文社)、訳書に、ポフミル・フラバル『わたしは英国王に給仕した』(河出書房新社)、パヴェル・ブリッチ『夜な夜な天使は舞い降りる』(東宣出版)、ラジスラフ・フクス『火葬人』(松籟社)、ミハル・アイヴァス『もうひとつの街』、『黄金時代』(河出書房新社)、オウジェドニーク『エウロペアナ』(白水社、共訳)、ヴァーツラフ・ハヴェル『力なき者たちの力』(人文書院)など。



好評開催中 チェコ語講座

協会発足以来続いているチェコ語講座です。講師は在日チェコ人の方をお願いしています。

場所： 日本チェコ友好協会事務所 品川区上大崎3-14-58 クリエイト目黒2A

費用： 全クラス 5回 1万円 (途中参加の場合は1回 2,000 円として残額)

毎週水曜日 開催 (祝日に当たるときは休講です。)

初心者クラス 19 時半から 21 時

中級継続クラス 18 時から 19 時半 (お問い合わせ： 090-3241-7256 担当：村田)

日本チェコ友好協会行事のご報告

1)クリスマスレセプション



当協会は毎年 12 月初旬に大使館と共催で「ミクラーシュの日」としてクリスマス・レセプションを大使館で開催しています。「日本でミクラーシュに会えるのはここだけ！」ということで、日本滞在中のチェコの皆さんにも広まり、お子様連れを中心にたくさんのご参加をいただいています。今年度は 12 月 5 日に開催され大人 100 名 子供 30 名のレセプションとなり、ミクラーシュ行も大忙しでした。山梨県韮崎市の内藤市長に参加いただいたのが縁で、同市で 2 月 1 日からビロード革命に関する展示会が行われることになりました。 www.city.nirasaki.lg.jp

2)クリスマスのミサ曲コンサート

また 12 月 22 日には今回で 4 回目となるヤクブ・ヤン・リバの『クリスマス・ミサ曲』の演奏会を行いました。チェコの風物詩の曲が、日本で原語で上演されていることが注目され、今年のリハーサルの様子はチェコの国营放送 CT24 が取材に訪れ、クリスマス前にチェコで放映されました。放映後チェコから合同演奏会の申し入れが早速届きました。早ければ 2020 年末にはチェコでの演奏会が実現するかもしれません。



3)ホルプ先生ご夫妻の講演を聴いて

1 月 11 日、約 50 名の皆様にご参加いただき、ホルプ先生による恒例の年頭講演会が開催されました。今年是一緒に来日されたヤナ夫人にも折角の機会なので併せてお話をさせていただくこととなり、2 部構成の講演会となりました。どちらの講演も他では聴くことが困難な大変面白く示唆に

富んだ内容でしたので、概要を報告します。

第1部「英国のEU離脱がもたらす結果」イジー・ホルプ・カレル大学教授

1. 近年、英国においてEU離脱論が高まった背景としては、難民の急増、貧富の格差拡大による社会問題の深刻化、中近東における武力紛争の激化、ブラッセルの官僚主義への反発などの諸事情が考えられる。2016年キャメロン首相は、対EU政策の行き詰まりを打開するため、EU残留か離脱かを問う国民投票を実施したが、離脱派が勝利するという大失敗に終わった。後を任されたメイ首相は、議会で3度にわたり提案を否決されてしまい、2019年9月万策尽きて辞職した。後任のジョンソン首相は、チャーチル、サッチャーの系譜に連なる「辣腕指導者」タイプの政治家であり、急ぎEUとの間で新たな離脱協定案をまとめ上げ、これを踏まえて12月の総選挙で大勝し、膠着状況を一気に打破した。1月9日の議会下院によるEU離脱関連法案の可決により、1月末のEU離脱が事実上確定した。
2. ジョンソン首相にとって離脱後の最大の課題は、離脱が英国経済に混乱を及ぼさないようにするため、EU及び米国や日本などの主要国との新たな通商協定交渉を早急に進めることである。もっとも一般的にはEUと新たな自由貿易協定を締結するためには3-5年は必要と言われており、本年末までの「移行期間」中に合意が出来なければ、移行期間の再延長若しくは秩序無き離脱のいずれかを選択せざるを得なくなる可能性も排除されない。米国との新協定交渉は、トランプ大統領が英国のEU離脱を支持していることもあり、比較的スムーズに進む可能性があるが、本年の大統領選挙でトランプが再選されない場合は、早急な新協定の締結は困難となろう。
3. 現在、100万人以上の英国国民が他のEU諸国に在住し、100万人以上の他のEU諸国国民が英国に在住している。離脱後、これらの人々のEU市民権に基づく諸権利がどうなるのかは、重大な問題であり、早急に解決する必要がある。ちなみにこの点についてチェコは英国との交渉を終了しており、既に解決済み。
4. EU離脱は、また、スコットランドにおける独立運動、北アイルランドにおけるカトリック系住民とプロテスタント系住民間の対立・抗争更には英国領ジブラルタルを巡る英国とスペインの紛争を再燃させる恐れがある。
5. この他NATOの軍事的活動、EUの拡大問題更には他のEU加盟国との二国間関係等への影響についても緊急性及び重要性を踏まえ逐次対処していく必要がある。



第2部 「1960年代のチェコにおける学生運動」ヤナ・コフノヴァー・カレル大学教授

1960年代後半にホルプ先生と共にカレル大学で学び、学生運動の活動家であったヤナ夫人が自らの体験を踏まえ臨場感あふれる興味深いお話をしてくれました。

1. 1960年代後半は、西側主要国で学生運動が大いに盛り上がった時期であったが、東側で学生運動が存在したのはチェコのみであった。チェコでは50年代末から文化面やマスコミにおいて自由化の動きが始まり、60年代に入るとその動きは更に強まっていった。サルトルやボーヴォワール等の西側文化人がチェコに招待され、禁書に指定されていたドストエフスキーの作品が演劇では上演され、「ブハール」という雑誌には若い教師が書いた共産党一党独裁を批判する論文が掲載された。こうした中でカレル大学では学生運動の自治を求める声が強まり、大学側もこれを認めた。共産党はこうした動きに不満であったが、結局黙認することになった。
2. 自治を認められたカレル大学の活動家達は、学部ごとの美人コンテストを実施したり、メーデー

一に当局主催のパレードとは別の独自のパレードを出したり、共産党幹部との公開討論会を開催したり、ドイツの学生運動のリーダーであるドゥーチュケを招待する等活発な活動を行った。「プラハの春」は、何もないところに突然発生したのではなくこうした学生運動の活動家たちを中心とする大きなうねりの中で準備されていたものである。

3. 1968年8月に「プラハの春」が挫折し、その後「正常化」の時代が始まると活動家たちの多くは海外に亡命し、89年の「ビロード革命」の後、帰国した。カレル大学の元活動家の中には、例えばハベル大統領の下で外務大臣を務めたヤン・カバンのように官僚や政治家となって活躍したのも少なくない。1968年は、世界を震撼させただけでなく、多くの人々の運命をも激変させた年であった。(文責 高橋)

チェコ関連イベント

外交関係樹立100周年記念演奏会

チェコ屈指のピアニスト ルデック・シャバカ氏とチェコセンターのエヴァ・高嶺所長をむかえ、日本で長くチェコ音楽を研究して来たメンバーによるチェコ音楽の珠玉のコンサートです。

日時:2020年2月7日(金) 19:00開演 (18:30会場)

場所:豊洲シビックホール

主催:日本マルティヌー協会 後援:チェコ共和国大使館、チェコセンター

詳細、およびお申し込みは同封のチラシをご覧ください。

阿部賢一先生がNHK・Eテレの人気番組「100分 de 名著」に出演されます

ヴァーツラフ・ハヴェルのエッセイ「力なき者たちの力」について4回にわたりお話をされます。2月3日から毎週月曜日の午後10:25~50(再放送は水曜日午前5:30~55と午後00:00~25) テキストは1月27日に発売されています。



<https://www.nhk.or.jp/meicho/>

===== 切り取り線 =====

MA VLAST No. 106 申込書

2020年 月 日

Fax: 03-6277-4160

メールでのお申込みは czfriend@outlook.jp まで

会員ご氏名

ご住所

ご連絡先電話番号 () e-mail

- (1) 2020年2月29日(土) PIANO TRIO CONCERT
() 参加します 参加人数 () 名
同伴者氏名

- (2) 2020年3月19日(木) 阿部賢一先生講演会
() 参加します 参加人数 () 名

同伴者氏名